

父親の育児・家事の参加時間について

(「社会生活基本調査」と「子ども・子育て県民意識調査」の違い)

平成24年4月11日 こども子育て支援課

【社会生活基本調査】

○社会生活基本調査は、日々の生活における「時間のすごし方」と1年間の「余暇活動」の状況など、国民の暮らしぶりを5年毎に調査し、高齢社会対策、少子化対策、男女共同参画に関する施策等の基礎資料として利用されているもの。調査の対象は、全国の世帯から無作為に選定した約8万世帯に普段住んでいる10歳以上の世帯員

○平成18年調査について

1. 調査日：平成18年10月20日現在
生活時間の配分についての調査は、10月14日から10月22日までの9日間のうちから、調査区ごとに指定された連続する2日間
2. 就学前児童のいる男性の家事・育児時間調査のサンプル数
全国 14,329 うち大分県 246
3. 未就学児童のいる男性1日当たりの家事・育児時間(週平均)
家事(「①家事」+「②介護・看護」+「③買い物」の3項目)+④育児(1項目)
大分県数値 ①6分+②0分+③7分+④23分=36分

○平成23年調査について

1. 調査日：平成23年10月20日現在
生活時間の配分についての調査は、10月15日から10月23日までの9日間のうちから、調査区ごとに指定された連続する2日間
2. 公表時期
生活時間に係る集計結果については、平成24年9月末日までに公表予定

プリコード方式(Pre-coding)	
<p>プリコード方式とは、調査票にあらかじめカテゴリー(分類肢)を設けて質問する方式をいい、選択回答方式とも呼ばれます。</p> <p>統計局が行う社会生活基本調査では、1日24時間の生活時間の配分状況を把握する調査事項について、昭和51年の調査開始以来この方式を採用しています。</p> <p>平成18年調査の調査票Aでは、あらかじめ行動の種類(20分類)が印刷された調査票に、世帯員各人が自分の行動を分類し、該当する「行動の種類」欄に従って時間区分ごとに線を引いていく方式で調査を行います。(右図参照)</p>	<p>【プリコード方式の調査票の記入例】</p> <p>※平成18年社会生活基本調査「調査票A」より</p>

【子ども・子育て県民意識調査】

調査票設問

問26 父親は、週平均で育児・家事に関して一日にどのくらい参加していますか。

【平日】数字を直接記入してください

育児	一日あたり	()	時間	()	分
家事	一日あたり	()	時間	()	分

【休日】数字を直接記入してください

育児	一日あたり	()	時間	()	分
家事	一日あたり	()	時間	()	分

「子ども・子育て県民意識調査」の「就学前児童の父親の育児・家事時間」は、1日のおおまかな時間配分を尋ね、週休2日と仮定して1日平均の時間を計算している。

「社会生活基本調査」が時間区分ごとに行動の種類を記入する、正味の育児・家事時間であるのに対して、「子ども・子育て県民意識調査」は他の行動時間を含んだ回答となる傾向があることが考えられる。

実際、「24時間」という回答が、平日育児で1名、休日育児で18名、休日家事で2名あった。(調査報告書 P44、45 参照) 24時間の回答については今回除外して集計しているが、正味の行動時間を尋ねる「社会生活基本調査」と比較することは適当でないと考えられるため、今回調査では参考数値としている。